

57X  
94  
23

準貴

溪山草紙

十七



そとあくまうす  
一にあがこざ  
ゆきゆきわくす  
ひいとくもとゆ  
きぬよとおとせり  
やさはうのうと  
てゆれとしとくわ  
つぎゆくわとく  
よとくいゆくら  
よのいを山ちうる  
ひきげ下のひうる  
まきりよのひばん





けり。此の事とくとく金を  
もよおす。ひはひの舟を  
うらへ。かしづひの舟にま  
しゆは。いとくとくとくとく  
ひぬよ。べら。あら。のふる。  
ばあく。あゆ。のふる。  
ごど。かね。のぎ。ぎんざ  
ざく。とく。のほ。のとく。  
ちりや。ひき。で。ひうち。かく。  
れ。かく。とく。の。ひ。ひ  
うと。とく。ひ。ま。ま。

やがりでゆれ行う  
うちとてゆくとくとく  
てあざのくらとのぐち  
きひのまなぶんのむらわい  
わざのめまひひやへつ  
き十八。まよばこ十人余  
人のくらんじはりおきてさみ  
いわぢうりぐくふあくと  
こもりをまし中ふどり  
はがくとがくらうの半  
うをとくよくされけく  
らすへゆるうゆは  
ははくとあくとまく



あらわすもよし  
らのまつり  
いとくらひふのう  
うそあんり  
きんほのう

そのあらわひをあゆむ  
とぬるふうにあらわりを  
もどすとまゝに  
まつて一日の見れども  
きくまゐるにあらわ  
らんのやうじやうのをそ  
もういゆれまちう  
かうひものうじとそゆふお  
うひのうじとそゆふお  
のうじとそゆふお  
のうじとそゆふお  
のうじとそゆふお  
のうじとそゆふお  
のうじとそゆふお  
のうじとそゆふお  
のうじとそゆふお

まつてあらわりを  
あらわりのまづれ  
もみがくとまづれ  
きれはねのまづれ  
あらわ  
まづれ



り。うぢうの海をも  
とよもとくのゆくことを  
あらしりうきんちに  
さびえ三うんと二うん。  
みんのよのゆくとど。  
あゆみいきぬま一  
うんのひもとばかうで  
どのか肉桂びのもけ  
の肉桂。うんとあく  
あきうきんくいざ  
もああいわづらがく  
じめいがくのうへの年  
ちふちゆの二男。ち

いへのゆくと。二  
るくおゆくとく  
きくらへりいとうりは  
こくしげりのあく  
うのほりわらじの  
てらこむたれ人九人代  
きくらへく

居の

まひき  
まつまき

まひき  
まつまき

新嘗か一むすりきんわや  
うらのまわや  
くまひのまわや  
あくもかはまわや  
せどじいとまわや  
うらあたねぐへいは  
とまわや  
三月、<sup>和日</sup>  
とまわや  
きくえれちりてんふん  
りくふくうじゆうがん  
こあがりよのくわや  
くわぐんまくわや



りかとく。うきく  
あふめらむ。ま乃  
くのよまく。はる  
よち入。とおも  
れ。

